



5月26日(金)にCAP教職員ワークショップを実施しました。CAPとは、Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の頭文字をとったもので、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といった様々な暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。12月に1年生が実施する前に、まずは教員が研修を受けました。

県 教委が、このプログラムを全県の県立高校に各校1回ずつ実施するように計画し、今年最終年の5年目で本校が当たりました。計画した当時も県内では高校生の自死事案が多く、虐待等も問題になっていました。子どもたちが身近な人に「困り感を相談することって大事なんだ」ということがわかるプログラムをCAPながのに委託して実施することとなりました(経費は県教委が負担)。

CAPながの理事長の矢島宏美さん(長野県教育委員会教育委員)が中心にワークショップを進め、生徒に行うワークショップと同じ内容を教員向けに解説を交えながら、2時間実施しました。

こ のワークショップで学べたことをまとめました。(職員感想含む)

- ・食べることと寝ることは生きるために必要なことと同じに、人権もどうしても必要なことという認識が大事。
- ・人権の概念として、「安心して」「自信を持って」「自由に」生きることのどれも人から侵害されないこと。
- ・自分が大切にされていると思えるような肯定的な関わりが必要である。
- ・いじめを受けている子が、自分が悪いと思っていると身近な人に相談できないことがある。「あなたは悪くない」と寄り添った対応が必要である。
- ・いじめをした子は、問題児ではなく、問題を抱えている子であること。実は家庭で暴力があったり、性的虐待を受けていたりということがあれば、加害者の前に被害者でもあるということとSOSのサインとして受け止められる見方が必要である。
- ・CAPスタッフによる劇を通して、自分が高校1年生の時の感情移入ができ、普段なかなかじっくりと考えることができないことを考えることができた良い機会であった。

矢 島さんは、職員ワークショップ後の感想として、「風通しの良い、安心を感じられる先生方との時間を過ごすことができてうれしかった。ありがとうございました。」とおっしゃってください、次の1年生へのワークショップに気持ちを向けていました。

